

第1回 品川区学事制度審議会 会議録(要旨)

日時:平成28年10月27日(木) 15:00~17:00

場所:251・252 会議室(品川区役所第二庁舎5階)

出席者:

委員	(出席委員) 名和田委員長、窪田副委員長、樋口副委員長、保科委員、矢野委員、高林委員、三瓶委員、小宮委員、巻島委員、村田委員、秋廣委員、木下委員、矢田委員、佐藤委員、山口委員 (欠席委員) なし
区側出席者	中島教育長、本城教育次長、品川庶務課長、篠田学校計画担当課長、有馬学務課長、熊谷指導課長、村尾教育総合支援センター長、木村品川図書館長、山本統括指導主事、中山企画部長、柏原企画調整課長、堀越地域振興部長、伊崎地域活動課長、若生学校計画担当主査

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 委員長、副委員長の選出
- 5 諮問
- 6 議事
 - (1) 審議の進め方・スケジュールについて
→委員了承
 - (2) 品川区の学校教育環境の現況報告
 - ①前回学事制度審議会答申の概要
 - ②品川区の教育改革の取組みについて
 - ③品川区の就学人口の推移と今後の予測
 - ④品川区立学校の学校規模の現況について→事務局より説明

7 意見交換

※初回のため特定のテーマを設定せず、各委員それぞれの立場からの自由な意見交換を行った。

＜主な意見＞

- ・ 通常学級だけでなく、特別支援学級の観点を交えて学校規模を議論すべき。
- ・ 戸建てが多い地域かマンションが多い地域かが人口の増減に関係する。過去に公営住宅が建って子どもが60人も増えたことがある。
- ・ 地元にある小学校は校舎が小さく古いので、近隣の小学校へ通う子どもが増えている。児童数を増やすために建替えや通学路の新設などを提案している。
- ・ マンション建設などで子どもの数が増えてきていることによって、小学校が足りるのかという話が地域から出ている。
- ・ 人口推計では当面は増え続けると出ているが、現状でも空き教室がないところなどは今後教室不足が懸念される。
- ・ 保護者や児童・生徒向けのアンケートは毎年行っているようだが、幅広い層の民意を知るために、区民対象のアンケート調査を早急に行う必要がある。
- ・ 地元の子どもたちが、学校選択の結果、別々の3つの小学校に通っているような現状もある。町会側がどこの学校と関わればよいか迷っている。
- ・ 義務教育学校ができたことで、単体の小学校・中学校とどう棲み分けるか。小・中学校か義務教育学校かの2ルートその他、小学校から義務教育学校の後期課程へ行くケースと、その反対のケースを含め、4つのルートがある。
- ・ 学校選択の結果を見ると、保護者は教育の中身で学校を選ぶようになってきていて、学校選択制が定着していると感じる。
- ・ 学校選択制が始まって、教員が危機感を持って、もっと地域の行事に関わらなければと考えるようになった。また、保護者も学校に意識的に関わるようになってきた。学校選択制は何らかの形で継続したほうがよい。
- ・ 一貫教育は、当初は課題もあったが、現在では義務教育学校だけでなく単体の小・中学校間でも連携が進んでいると感じる。
- ・ 一貫教育を進めるうえで壁となるのが学区域の問題。小学校から中学校へ上がる際、連携している学校どうしの学区域が合っていないため、小中の連携がなかなかうまくいかないという課題がある。
- ・ まちの特性に合った学校づくり、まちづくりという視点での答申が出るとよい。

8 連絡事項

9 閉会

以上